

株主優待について



1. 500円相当のカーボンオフセット付きQUOカード「GREENSHOES CARD」を贈呈

2. 「財団法人緑の地球防衛基金」への寄付
(優待品相当金額の10% = 50円)

- 毎年3月31日現在の100株以上所有の株主の皆様を対象といたします。
- QUOカードにカーボンオフセットの機能を取り入れることで、カード1枚につき、CO₂などの温室効果ガス約6kgの削減に貢献できます。

ホームページのご案内

ニュースリリースやIR資料等の最新情報をご提供しています。



<http://www.rasaco.co.jp/>

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月下旬
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-78-2031
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店および全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
上場金融商品 東京証券取引所市場第一部
取引所 (証券コード: 3023)

● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

● 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

● 「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

 ラサ商事株式会社



RASACORPORATION REPORT

株主・投資家の皆様へ | 第109期 上半期報告書 | 2010.4.1 ▶▶▶ 2010.9.30

 ラサ商事株式会社

証券コード: 3023



代表取締役社長

井村周一

ラサ商事の企業理念

世界に通用する一流技術商品と有用な価値ある資源を国内外に販売し、豊かな社会に貢献

中長期的な経営戦略

- 資源・金属素材から機械、環境設備関連までグローバルに事業を展開
- 当社独自のエンジニアリング技術の革新に努め、環境ビジネスを拡大
- 常に、顧客の立場に立ち、現場に密着した提案営業を進めるとともに満足いくサービスを提供
- 明日に向けて、広く産業界に役立つコア・コンピタンスを創造・育成

厳しい事業環境の中で増収増益。下期も通期ベース増収増益に向け邁進いたします。

当第2四半期累計期間の業績

売上・利益ともに当初予想を大幅に上回り、増収増益を達成することができました。

当期は、先行き不透明な経営環境でスタートし、当第2四半期累計期間の業績は、減収及び赤字計上という当初予想を公表しておりました。しかしながら、その後、業績予想の上方修正を2010年8月2日と同年10月19日の2回にわたり公表し、結果としては、当初予想を大幅に上回るとともに、前年同四半期比でも増収増益を果たすことができました。

売上高は、当初予想比16.2%増、前年同四半期比8.6%増となりました。主な増収要因は、新興国経済の回復に伴ってフェロニッケルなどの価格が上昇したことから、資源・金属素材関連事業の売上高が前年同四半期比17.3%増と大幅に増加したためです。

利益面では、当初予想の営業損失50百万円から営業利益2億56百万円、前年同四半期比6.6%増となりました。主な増収要因は、積極的な営業展開の結果、資源・金属素材関連、産機・建機関連、環境設備関連の3事業すべてにおいて売上総利益が当初予想を上回ったことに加え、経営効率の改善に努力した結果、販管費を抑制することができたためです。特に販管費は、増収基調の中で8百万円の圧縮を果たしました。

■ 当第2四半期累計期間(2Q累計)の業績予想と実績 (単位:百万円)

	当初予想 2010年 [5月10日公表]	修正予想 2010年 [8月2日公表]	当2Q累計 実績	前2Q累計 実績
売上高	9,800	11,000	11,392	10,492
営業利益	△50	60	256	240
経常利益	△50	60	259	237
四半期純利益	△50	35	138	133

通期の見通しと配当

通期予想を上方修正し、増収増益を見込むとともに、配当予想についても、1株当たり年間配当を8円から10円に修正しました。

景気動向は総じて、上半期においては企業業績の改善に伴う設備投資の持ち直しなど、自律的な回復に向けた動きも見られましたが、下半期に入って海外景気の下振れ懸念や円高要因など先行き不透明感が增大しております。

こうした厳しい事業環境下ではございますが、通期の業績予想につきましても、2010年10月19日に上方修正を発表いたしました。製鋼原料の販売価格が当初予想を上回る水準で推移する見込みであること、売上総利益が当初予想を上回る見通しであること、販管費が当初予想を下回る見通しであることなどにより、当初の減収減益予想から増収増益予想に修正させていただきました。なお、下半期以降、円高傾向が加速しておりますが、こうした為替の変動が短期的な業績に与える影響は、当社においては軽微であると判断しております。

以上のような見通しに基づき、当社では通期業績予想の修正とあわせて、配当予想の修正も公表いたしました。当第2四半期末の配当金は、当初予想通り1株当たり4円とさせていただきますが、期末配当につきましては当初予想の4円から2円増配の6円とし、年間配当10円とさせていただきます予定です。

■ 当期の業績予想 (単位:百万円)

	当初予想 2010年 [5月10日公表]	修正予想 2010年 [10月19日公表]	前期実績
売上高	21,000	23,000	22,858
営業利益	700	950	881
経常利益	700	950	898
当期純利益	400	530	403

今後の主な取り組み

ニッチな3事業において、提案型営業と高付加価値な機能提供を推し進め、利益ある安定成長を目指してまいります。

当期の売上高が当初予想を大幅に上回る水準で推移している主な要因は、資源・金属素材関連事業におけるフェロニッケルの堅調な需要とジルコンサンドの価格上昇であり、新興国経済に支えられたものと言えます。しかしながら、中長期的な成長を図っていくためには、景気変動に左右されず、日・米・欧など先進国の景気低迷下でも安定した売上と利益を確保していける体制を強化していくことが重要であると考えております。

当社の3つの事業はすべて、ニッチな分野において独自性の高いノウハウと経験を積み重ねてきた結果、非常に強い競争力を有する事業へと成長しております。商社の枠組みを超え、お客様のあらゆる問題・課題を解決することを目指した提案型営業と、多様な技術サポートをはじめとした高付加価値な機能の提供を行っていくことで、長年にわたるお客様との強固な取引関係を築き上げてまいりました。こうした強みを更に強化していくことで、当社は今後も、「利益ある安定成長」を図っていくことができるものと確信しております。

株主の皆様には、引き続き当社の経営にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ 当期の配当予想 (単位:円)

	当初予想 2010年 [5月10日公表]	修正予想 2010年 [10月19日公表]	前期実績
第2四半期末	4.00	4.00 (実績)	4.00
期末	4.00	6.00	4.00

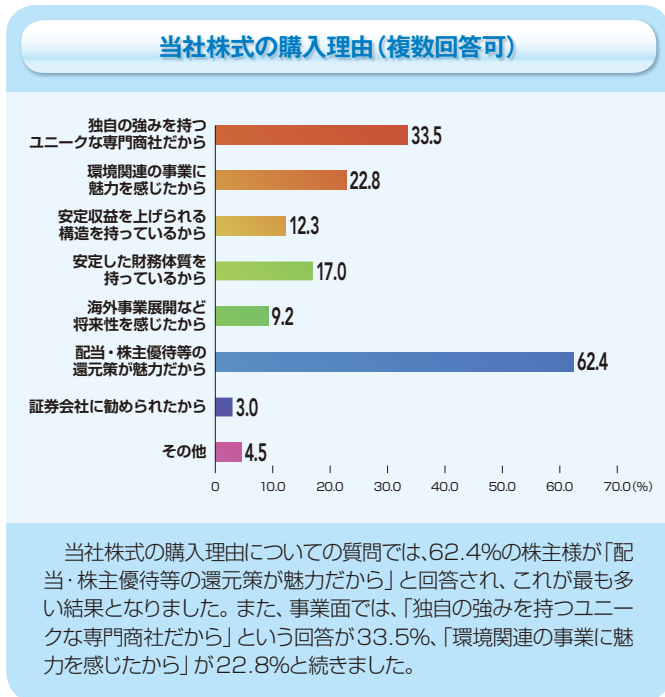
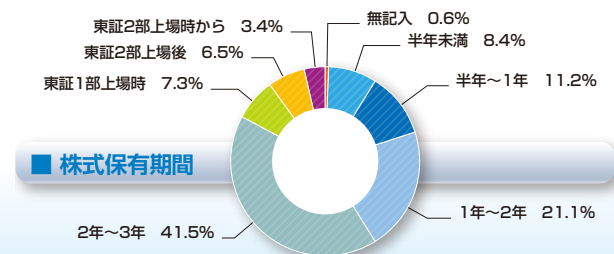
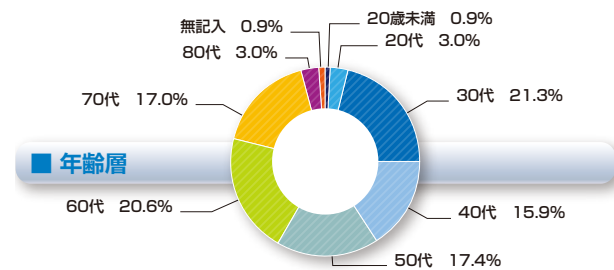


第1回となる株主アンケートを実施し、多数の株主様よりご回答いただき、心より御礼申し上げます。

当社は、「第108期報告書」(RASA CORPORATION REPORT)において、第1回目となる株主アンケートを実施いたしました。2010年3月末現在の株主様4,142名に配布した結果、465名の株主様からご回答をいただきました(回収率は11.2%)。心より御礼申し上げます。皆様からいただいたお声を、今後の当社の経営やIR活動に活かしていけるよう努めてまいります。

ご回答いただいた株主様の年齢層は、30代~70代までバランス良く分布しており、また、株式保有期間では、東証1部上場時(2007年3月)以降の株主様が89.5%とほぼ9割を占めております。

以下、アンケートの集計結果の一部をご紹介します。

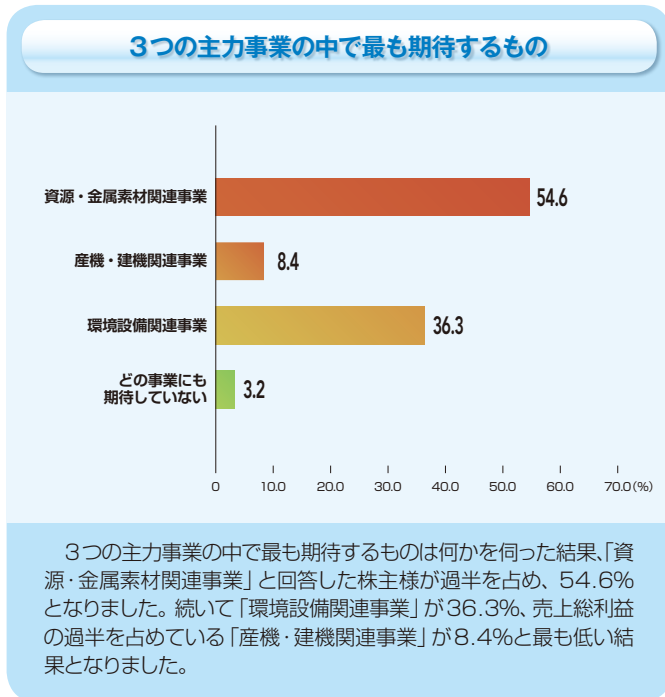


当社株式の購入理由についての質問では、62.4%の株主様が「配当・株主優待等の還元策が魅力だから」と回答され、これが最も多い結果となりました。また、事業面では、「独自の強みを持つユニークな専門商社だから」という回答が33.5%、「環境関連の事業に魅力を感じたから」が22.8%と続きました。

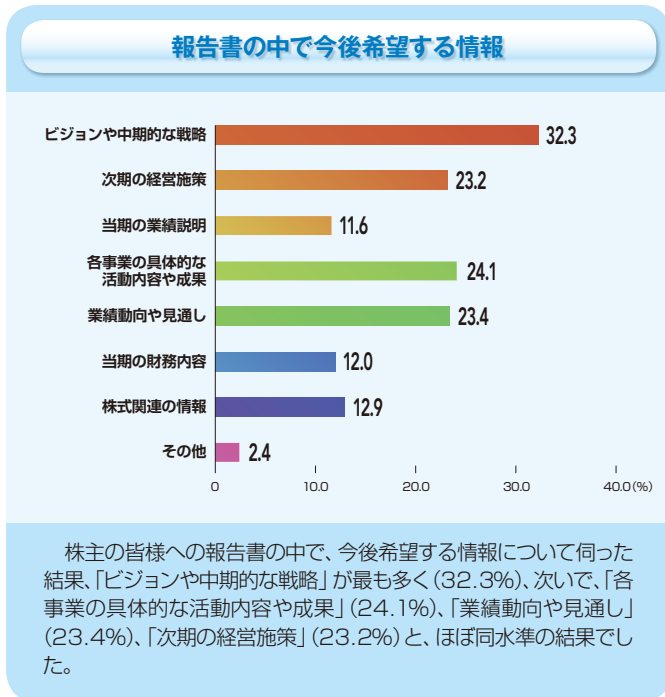
株主の皆様からいただいたお声の一部をご紹介します。

【利益還元関連】

- 毎期クオカード送付いただきありがとうございます。ユニークな商社に期待します。
- 着実な業績向上を期待します。また、株主優待の継続も期待します。
- 株主還元をよろしく願います。株価は気にしておりません。
- 長期保有しますから、配当と優待を続けてください。
- 株主優待で枚数により差をつけてほしい。私は1000株以上持っているのに100株の人と同じというのはあまりいい気はしない。



3つの主力事業の中で最も期待するものは何かを伺った結果、「資源・金属素材関連事業」と回答した株主様が過半を占め、54.6%となりました。続いて「環境設備関連事業」が36.3%、売上総利益の過半を占めている「産機・建機関連事業」が8.4%と最も低い結果となりました。



株主の皆様への報告書の中で、今後希望する情報について伺った結果、「ビジョンや中期的な戦略」が最も多く(32.3%)、次いで、「各事業の具体的な活動内容や成果」(24.1%)、「業績動向や見通し」(23.4%)、「次期の経営施策」(23.2%)と、ほぼ同水準の結果でした。

- 株主優待の緑の地球防衛基金への寄付など環境対策を広く市民に知らせる活動に力を入れてほしい。
- 配当の向上をお願いします。
- 自社株買いの充実や長期保有株主への優遇策を進めてほしい。
- 5年後、10年後の成長を期待しています。
- 環境設備関連事業に対する積極的PR、世界的戦略に期待しております。
- ユニークな商社として安定的に成長してほしい。
- 不況時でも安定のある経営を今後ともお願いします。
- 他社の追随を許さない専門技術集団の育成が不可欠であります。

【激励など】

- 来年の新社屋完成による経費削減とモラルの向上が期待されます。
- 地道に又アグレッシブに頑張ってください。(相反事象のようですが)
- 事業内容はとても魅力あると思っているのですが、知名度がないのか株価に反映されていなくて残念。応援していますので、頑張ってください。
- 将来性のある企業に投資したいと思います。3事業の発展と新事業に期待しています。

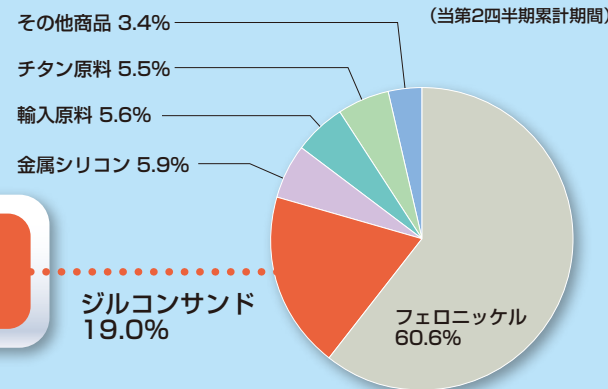
【ご要望など】

- 各事業別の営業成果が減少したのはわかりましたが、その打開策を案出してほしい。
- 買い増しをするかを考えています。「この会社の株主で良かった」と思える経営を。
- 株価が低迷していますので、上昇するよう業績アップにつとめてください。
- 株価が業績・業務内容に比べて不安定。これが悩みです。

前ページでご覧いただいたように、株主アンケートの結果、当社が展開する事業の中で「資源・金属素材関連事業」に対して期待するという株主様のお声が最も多い結果となりました。理由としては、「資源小国・日本」の現状や、その中で今後、資源が重要なカギを握っていかろうという株主様の分析などがあげられます。

そこで、今回は、多くの株主様にご期待・ご注目をいただいております「資源・金属素材関連事業」について、当社の強みを簡単にご紹介いたします。

当社の資源・金属素材関連事業の売上高構成比

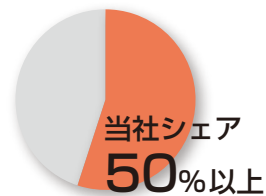


当社の資源・金属素材関連事業の中で最も売上高構成比の高い「フェロニッケル」(鉄とニッケルの合金)は、ステンレス鋼の主原料です。耐熱性や耐摩耗性に優れ、腐食や酸化にも非常に強い特性を持っており、私たちの身近な商品に幅広く活用されております。

ジルコンサンド
国内シェアNo.1

生産量世界第1位のアイルカ社(豪州)との日本における総代理店契約を基礎に、当社はジルコンサンド取扱量で国内No.1の地位を確保しています。

ジルコンサンドの国内取扱量シェア



ジルコンサンドは、豪州・南アフリカ・東南アジアなどに広く埋蔵されている天然鉱石で、私たちの生活に密着した商品などに使用されております。

例えば、セラミックの釉薬として使用されタイルや衛生陶器などの商品となります。PDP(プラズマディスプレイ)のガラス原料、ICチップの鏡面加工研磨剤、高炉の耐火物など、産業界を支える重要な資源の一つとして多方面での活用が進んでいます。

当社は、ジルコンサンド取扱で40年以上の実績を誇っております。

「提案型営業」の基礎は、「お客様の生の声」

当社は、専門商社として3つの事業を展開するなか、一般的な商社機能にとどまらず、商社の枠組みを超えた機能の提供を大きな強みの一つとしております。今回のシリーズ『商社の枠組みを超えて…』では、「提案型営業」の現場として、当社の産業機械部門の活動内容をご紹介します。

当社は、産機・建機関連事業において、ポンプを主力商品として取り扱っています。その活動の担い手である産業機械部門では、商品の販売にとどまらず、機械の設置工事、納入後の点検・整備、部品交換などのメンテナンス事業等の「機械メーカー機能」も果たしております。機械メーカーとの緊密なコミュニケーションを基礎としながら、商品販売後もお客様を定期的に訪問して常にニーズを把握するなど密接な関係性を確保し続けることで、安定的かつ重要な収益源の一つとなっているメンテナンス事業の継続に加え、改善提案や新規商品提案など次のソリューション提案につなげていける長期的な信頼関係を築き上げております。

本社の営業組織は、鉄鋼メーカーをはじめとするエンドユーザーとの直接取引を行っている「産業機械一部」と、プラントメーカーとの取引を行っている「産業機械二部」の2部体制を敷いております。

エンドユーザーのあらゆるニーズにお応えしていくことが我々の使命であると考えています。

ニッチな分野の商品であることもあり、長年のノウハウと経験を蓄積している当社でなければ、お客様のニーズにお応えすることが難しい状況にあります。場合によっては商品の改造まで請負うこともあり、とにかくお客様の生の声に常に耳を傾け、どんなニーズにでもお応えしていく姿勢が大切だと考えています。



産業機械一部
長谷川 幸雄

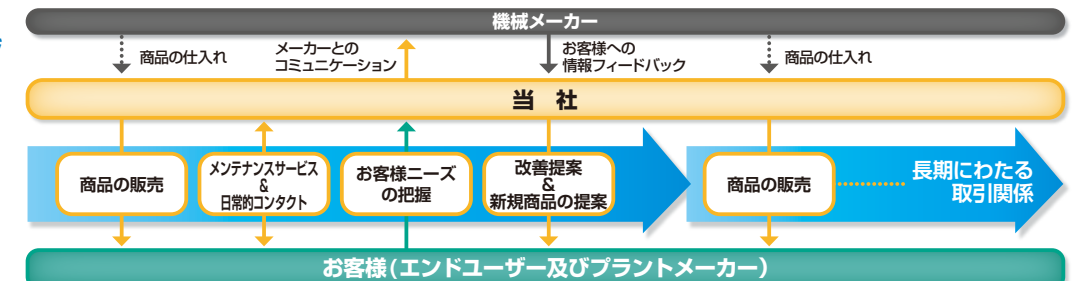
基礎設計の段階から係わり、プラントメーカーのニーズに的確にお応えしています。

プラント全体を設計・建設するプラントメーカーに対して、当社が得意とする分野の商品を提案・販売しています。基礎設計の段階から係わることで、大量受注の確実化、より最適な商品の提案などにつなげています。また、可能な限り現場(エンドユーザー)にお伺いし、より踏み込んだ技術サポートにも努めています。



産業機械二部
成瀬 貴章

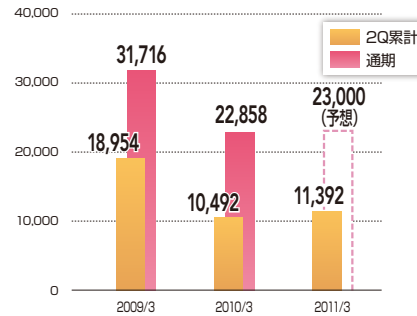
提案型営業のフロー・イメージ



損益の状況 … 当初予想を大幅に上回り、増収増益となりました。

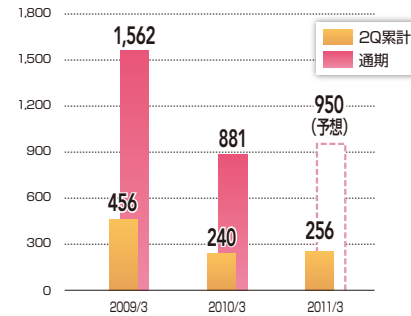
注) 下のグラフの通期予想は、2010年10月19日公表の修正予想値です。

売上高 (百万円)



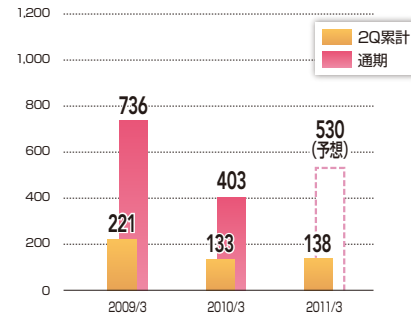
海外景気の下振れ懸念や円高要因などで引き続き厳しい状況の中、資源・金属関連事業でLMEニッケル相場の回復に伴う製鋼原料などの価格が上昇したことなどから、売上高は前年同四半期比8億99百万円増加し113億92百万円となりました。

営業利益 (百万円)



売上総利益が3部門とも当初予想を上回り増益になったことに加え、経営効率の向上に努めた結果、販管費も減少したことから、営業利益は前年同四半期比15百万円増加し2億56百万円となりました。(当初予想は50百万円の営業損失)

四半期(当期)純利益 (百万円)

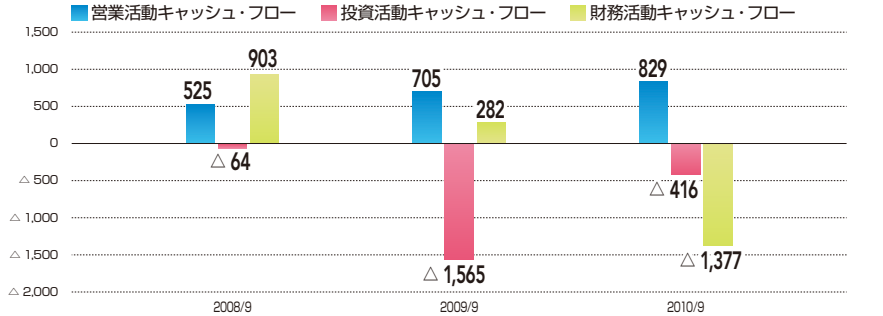


投資有価証券評価損など特別損失39百万円を計上しましたが、営業利益の増益や法人税等の減少などにより、四半期純利益は前年同四半期比4百万円増加し1億38百万円となりました。(当初予想は50百万円の四半期純損失)

キャッシュ・フロー … 増収増益基調を背景に、有利子負債の圧縮に努めました。

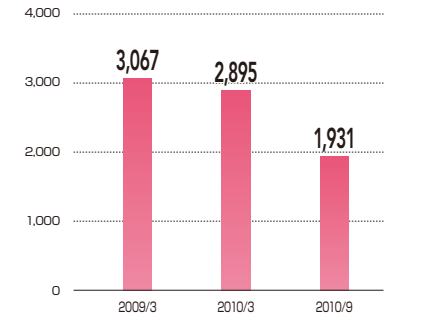
注) 下のグラフの通期予想は、2010年10月19日公表の修正予想値です。

キャッシュ・フロー (百万円)



営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少による資金の増加等が資金の減少を上回り、8億29百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得を行ったことなどから4億16百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、転換社債型新株予約権付社債の償還、自己株式の取得、長期借入金の返済などにより、13億77百万円の支出となりました。

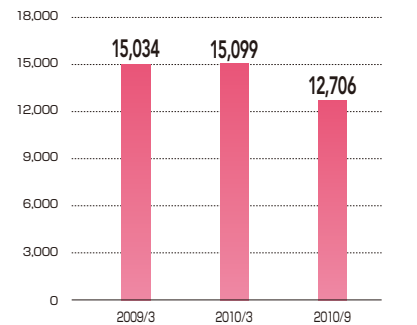
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)



当期は、長・短借入金をはじめとした有利子負債の圧縮に努めた結果、当第2四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前期末比9億64百万円減少し19億31百万円となりました。

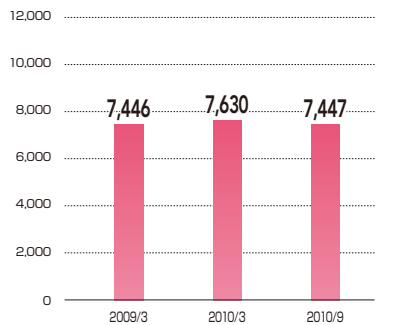
財政状態 … 前期末に比べ、自己資本の充実がさらに進んでおります。

総資産(資産合計) (百万円)



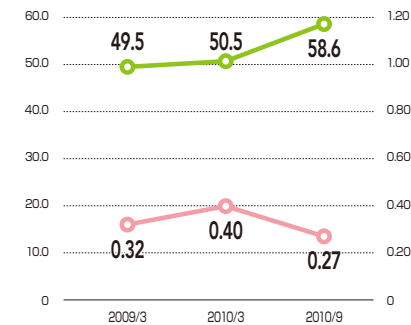
流動資産は、現金及び預金、受取手形及び売掛金、商品及び製品の減少などにより前期末比27億24百万円減少し、固定資産は、本社ビル建設着手金の支出などにより同3億31百万円増加しました。この結果、総資産は同23億92百万円減少し127億6百万円となりました。

純資産 (百万円)



四半期純利益の積み増しにより利益剰余金が増加する一方で、自己株式の取得等による減少があったことから、純資産は前期末比1億82百万円減少し74億47百万円となりました。

自己資本比率 D/Eレシオ (%/倍)



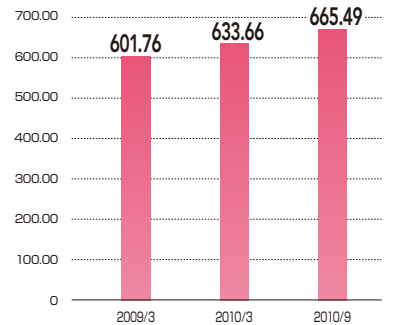
自己資本比率は、総資産の減少などにより前期末比8.1ポイント向上し58.6%となりました。一方、D/Eレシオは、有利子負債残高が同10億66百万円減少したことから同0.13ポイント低下し0.27倍となりました。

※ D/Eレシオ=有利子負債÷自己資本

配当金など … 当初予想を上回る業績見通しを受け、増配を予想しております。

注) 下のグラフの通期予想は、2010年10月19日公表の修正予想値です。

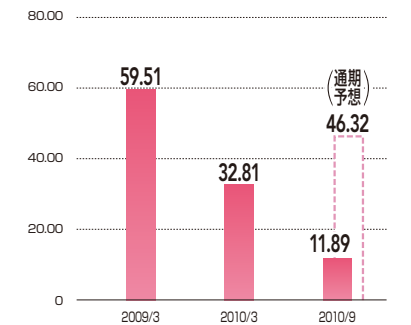
1株当たり純資産 (円)



会社の資産価値を見る指標の一つである「1株当たり純資産」は、前期末比31.83円増加し665.49円となりました。なお、当社株式の当第2四半期末終値(2010年9月30日)は290円であり、PBRは0.44倍という水準にあります。

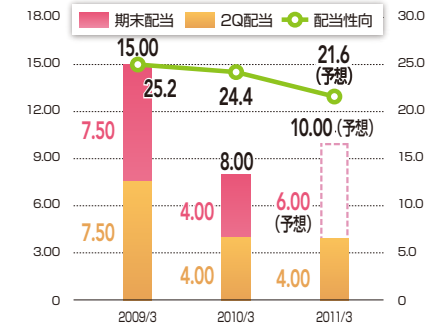
※ PBR=株価÷1株当たり純資産

1株当たり四半期(当期)純利益 (円)



投資価値を判断する指標の一つである「1株当たり当期純利益」は、通期予想ベースで前期末比13.51円増加し46.32円となる見込みです。

1株当たり配当金・配当性向 (円/%)



当期の配当金は、1株当たり第2四半期末で4.00円とさせていただきます。期末配当金につきましては、当初予想を大幅に上回る業績推移を受けて当初予想の4.00円を上方修正し6.00円とさせていただきます。年間10.00円を予想しております。

資源・金属素材関連事業

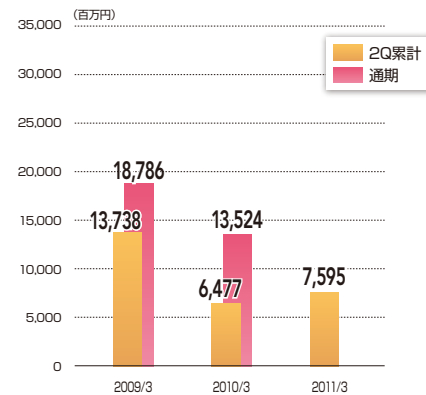
売上高 (2011年3月期2Q累計)

75億95百万円
(前年同四半期比17.3%増)

営業利益 (2011年3月期2Q累計)

1億98百万円

売上高の推移



主力2商品をはじめ
全般的に好調に推移し
増収となりました。

新興国経済の回復などを要因として、主力のフェロニッケルとジルコンサンドの需要が堅調に推移するとともに、金属シリコンも自動車業界の回復により売上増、輸入原料についても仮焼アルミナなど新たな商材の拡販が寄与して売上増となり、同事業の売上高は前年同四半期比17.3%増の75億95百万円、営業利益は1億98百万円となりました。

(注) 上記の各事業別の営業利益は、セグメント間の調整前の数字です。なお、セグメント別の営業利益は当期より開示しております。

産機・建機関連事業

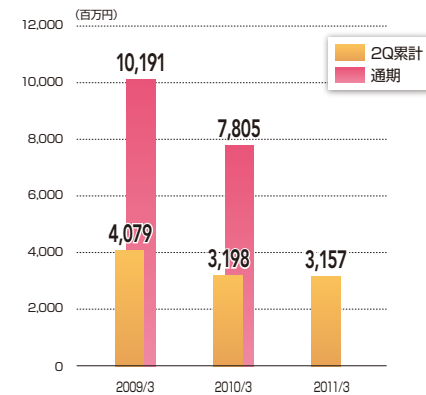
売上高 (2011年3月期2Q累計)

31億57百万円
(前年同四半期比1.3%減)

営業利益 (2011年3月期2Q累計)

3億23百万円

売上高の推移



部品・メンテナンスの
大口案件剥落により
売上高は微減となりました。

産業機械では、国内設備投資の改善が見られ、民間企業向け各種ポンプ類の販売は回復基調となりましたが、部品・メンテナンスは、前年同四半期に大口案件を計上しているため売上減となりました。建設機械では、シールド掘進機の海外向け販売が好調に推移し売上増となりました。これらの結果、同事業の売上高は前年同四半期比1.3%減の31億57百万円、営業利益は3億23百万円となりました。

環境設備関連事業

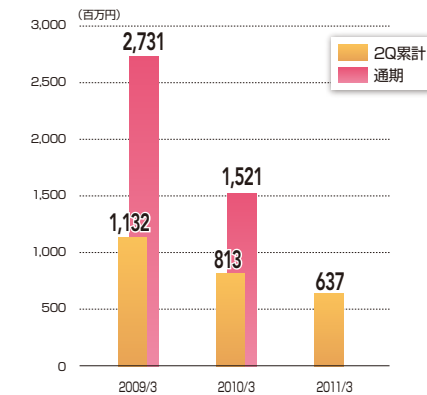
売上高 (2011年3月期2Q累計)

6億37百万円
(前年同四半期比21.7%減)

営業利益 (2011年3月期2Q累計)

70百万円

売上高の推移



水砕スラグ製造設備の
大型完工案件がなく
減収となりました。

定期整備案件に対する営業強化が奏功し、部品・メンテナンスが好調に推移しました。しかしながら、水砕スラグ製造設備の大型案件について、前年同四半期はインド向け案件の売上計上がありましたが、当第2四半期累計期間は大型案件の売上が無かったことから、同事業の売上高は前年同四半期比21.7%減の6億37百万円、営業利益は70百万円となりました。

会社の概要

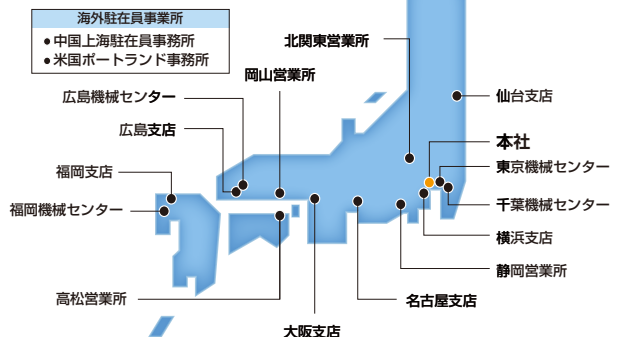
社名 ラサ商事株式会社
 設立 1939 (昭和14)年1月10日
 資本金 18億54百万円
 本社 〒103-0015
 東京都中央区日本橋箱崎町8番1号
 ヤマトネ箱崎ビル
 TEL (03) 3668-8231
 FAX (03) 3669-1729
 売上高 228億58百万円(2010年3月期)
 従業員数 201名
 会計監査人 監査法人大手門会計事務所
 許可 特定建設業許可
 (機械器具設置工事業・電気工事業・水道施設工事業)
 古物商許可

取締役及び監査役

代表取締役社長	井村 周一
代表取締役専務	田畑 威彦
常務取締役	古谷 利央
常務取締役	伊藤 信利
取締役	鈴木 卓
取締役	澤本 滋
取締役	中西 俊雄
取締役	大岡 隆
監査役	栗田 治彦
監査役	松尾 宰
監査役	日原 道行

*監査役 松尾 宰、日原 道行の両氏は社外監査役であります。
 *監査役 松尾 宰氏は独立役員であります。

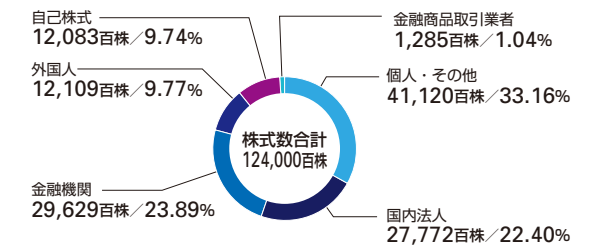
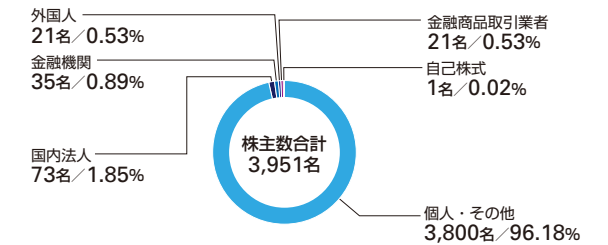
事業所



株式の状況

発行済株式の総数 12,400,000株
 株主数 3,950名(自己株式除く)

所有者別株式分布状況



大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大平洋金属株式会社	1,040,000	8.38
シティグループ・グローバル・マーケット・インク	720,000	5.80
株式会社損害保険ジャパン	470,000	3.79
アトラスコブコ コンストラクション ツールズ エイビー	400,000	3.22
日本生命保険相互会社	370,000	2.98
東京海上日動火災保険株式会社	360,000	2.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	287,900	2.32
株式会社みずほ銀行	260,000	2.09
大平洋機工株式会社	207,000	1.66
三機工業株式会社	200,000	1.61

(注) 当社は自己株式を1,208,390株(9.74%)保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。